

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092400078
法人名	社会福祉法人 桜園
事業所名	グループホーム さくらそう (ユニット名 かのん)
所在地	福岡県筑後市大字西牟田6028番地1
自己評価作成日	平成24年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成24年2月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

若い職員が多く、祖父母と孫のような関係性を大切にしつつ毎日を楽しみ過ごして頂きたいという思いから、様々なレクリエーションに力を入れている。また、ご家族やご親族の方がご面会に来られた際は、職員の方から積極的にコミュニケーションをとり、ご本人の特技や好み等の情報を得、ケアに活かせるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所理念は開設前に職員はどのような気持ちで介護をしたいのかを、職員アンケートをもとに「安心・自由・笑い・思いやり・信頼。皆で支え合いながら、楽しく笑いあひながら、住み慣れたちっこで、さあ暮らそう」と作りあげた。家庭的で生き活きと暮らし、家族の協力を得ながら、今日は、昨日と同じ1日を過ごさないようにとの思いで、夏祭り、餅つきや豆まきバレンタインのチョコレート作り等の季節を楽しむことのできる行事を企画し、利用者と一緒に楽しみ笑顔が見えるケアに取り組んでいる。行事時の写真を多く撮影しており、運営推進会議時に参加者に写真を見てもらいながら日々の暮らしがわかるように説明している。車椅子の利用者も一緒に定期的に神社参りに出かけたり、日常の会話の中でも昔の懐かしい歌が出て、職員と利用者は肩たたきをしたりして触れ合っている。職員は丸となって利用者一人ひとりが生き活きと安心して暮らせるように取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員と管理者での話し合いのもと理念を作り、その理念を共有しながら実践できるよう努めている。	開設前に職員と管理者で話し合い「安心・自由・笑い・思いやり・信頼・皆で支えあいながら、楽しく笑いあいながら、住み慣れたちっごで、さあ暮らそう」との理念を作りあげた。理念の実現に向け全職員で取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な地域との交流はあまり出来ておらず散歩時の挨拶程度。併設施設との交流は行っている。	町内会に入っているが、地域の行事には参加できておらず、事業所の行事に、地域の方を招く声かけをしていない。今後は夏祭りやソバ打ち等の行事に参加してもらえるよう検討している。	せっかく町内会に入っているのに、地域の一員として交流を持つことについて今一度検討し、実施に向けて取り組むことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に関する情報の地域発信は出来ておらず、今後の課題である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での内容は会議や連絡ノートで情報共有し、介護サービスの向上に活かしている。	2ヶ月に1度運営推進会議を行い、利用者の生活状況がわかるように写真を交えて報告している。家族からの要望や意見は、職員で話し合いサービスの向上に活かすようにしている。参加者より地域連絡網の作成に協力すると申し出があり、取り組んでいく予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明点がある時は連絡を取り解決できるよう取り組んでいる。	介護保険制度についての疑問点や運営について、市へ助言指導を仰いでいる。グループホーム部会で市役所へ行く時は、意見交換を行いホームの利用状況を伝えている。管理者は市との協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行っておらず、外へ出たいご利用者に対しては職員付き添いのもと出来る限り外出して頂くようにしている。今後も研修等で身体拘束への理解を深めていきたい。	玄関は夜間のみ施錠を行っている。職員は身体拘束について研修を受けており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ベッドから落ちる利用者に対しサイドレールで囲わずに、床にマットを敷き落ちても衝撃を受けない工夫をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や会議を通じて、虐待について学び考える機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修を通して、権利擁護に関して学ぶ機会はあるが、活用には至っていない。	現在、制度を利用している方はいない。家族関係も良好で対象者がいない為、制度の説明はしていない。制度については法人内で学ぶ機会があり、職員は自主参加で研修を受けている。	現在対象者はいなくとも、制度の存在を周知していく意味もふまえて、パンフレット等の設置について検討する機会を持つことを期待したい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い理解、納得を図っている。また、疑問点があれば随時解決するように努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者・ご家族が意見を言い易い環境作りに努めている。また、御意見箱を設置して、運営に反映できるようにしている。	玄関に意見箱を設置している。家族から直接意見を言ってもらえる関係作りを目指している。面会時や運営推進会議で意見が出始めている。利用者から外出先の希望や食事のメニューについて意見を聞き、職員間で検討し実施している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度会議を開き職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	管理者は、毎月開催する会議の中で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。新たな備品の購入や外出や行事内容等の提案を受け実施し、サービスの向上に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談等を通して、個々の勤務状況の把握に努め、やりがいを持って働けるような職場環境作りに努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	性別・年齢等での対象排除は行っておらず、幅広い年齢層の職員が働いている。個々の能力を発揮し生き生きと働けるような環境作りに努めている。	職員の募集に関しては、性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。現在19歳から70歳までの幅広い年齢層の職員が働いている。経験年数も10年以上から新人まで幅広い。調理や創作活動等、職員の特技を活かしそれぞれが生き生きと働いている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修等で人権を学ぶ機会を設けている。また、ケアの中で言葉使いなど気になる点があれば、その都度指導している。	人権や接遇について研修を行なっている。特に言葉使いに留意し、節度をわきま丁寧に対応するよう指導している。電話器の前にも対応マニュアルを貼る等、日頃から管理者や年齢の高い職員を中心に経験年数の少ない職員を指導している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修の開催、参加を推進している。各職員のケアの力量の把握と、それに合わせた教育マニュアルの整備を図りたい。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会に参加している。施設訪問等、交流の機会を今後増やしていきたい。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人・ご家族・職員を交え安心してサービスをご利用頂けるよう努めている。導入後もご本人とコミュニケーションを取りながら不安の解消を図っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前後を通して、ご家族と密に話し合いを行い、信頼関係の構築を図っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの特性とサービス内容をご理解いただき、ご本人のニーズとのマッチングに努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人を主体として生活を送って頂き、職員は寄り添う立場、ご利用者より教わる立場に置いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時や月に一度のお便りでご本人の状況をお伝えし、ご家族からも生活歴や嗜好を伺う事で、ご本人を深く知りケアの見直しにつなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出先はご利用者を交えて決定している。ご家族・知人の面会を大事にしているが、利用者側からの働き掛けが少ないことが課題である。	お正月は自宅への外出や外泊を行う利用者があり、行きつけの床屋には家族の同行にて行くようにしている。知人や隣組の方の訪問やボランティアの訪問は歓迎しているが一部の利用者に限られている。	在宅時のいきつけのお店や、友人宅を訪問したり、手紙を出す支援等、利用者の希望を聞きながら馴染みの人や場所との関係継続の支援に取り組むことを期待したい。
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の調整や職員介入による利用者間のコミュニケーションの橋渡しを行っている。行事は皆様にご参加頂き、打ち解け合う機会として頂いている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の小規模多機能型施設や他事業所含めて相談や支援に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	現在、ご入居の方は発語可能な為、お話の傾聴を第一としている。耳が遠い方は筆談を交えている。	日々の介護の中で、利用者と話ず時間を多く持ち希望や意向の把握に努めている。明確に意向を表せない利用者に対しては、家族や職員間で話し合い、本人の思いに近づけるよう気持ちの把握に取り組んでいる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェースシートの活用とご本人・ご家族との日々のコミュニケーションの中で生活歴や暮らし方の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事・入浴・排泄・睡眠の状態や言動・表情を中心に、細めな心身の状態把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な会議の場以外でも職員間やご家族を交えて話し合い、介護計画の見直しや改善に努めている。	介護計画には課題や目標が記載しており、現在行なっているケアは全て記載している。利用者本人から出た希望や意見が本人の言葉で会議録には記載されているが、居宅サービス計画書に反映されずに以前のままとっている。	利用者本人がよりよく暮らすための介護計画であるという視点になり、本人から出た希望や意見を盛り込んだその人らしい介護計画となることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子や変化を記録に残し、職員間の共通理解を図っている。必要があれば支援の見直しを行う。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小規模多機能型施設が併設していることのメリットを活かし、単一ユニットの枠に収まらない視点で支援を計画・実施している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、併設施設とも協力し合いながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に、ご家族・看護師同行のもと病院を受診し、日々のご本人の状態を報告している。	以前、受診していたかかりつけ医や協力医療機関で受診してもらっている。原則受診は家族に依頼しているが、困難な場合は送迎車両の実費負担が発生する。必要時には看護師が同行する場合もあり、職員が通院介助した場合は、変化がない場合も家族へ報告し、家族が通院同行をした場合も、受診結果は把握するようにしている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご本人の日々の状態を看護師に報告、相談している。看護師からも状態観察のポイントや対応等の指導が適宜ある。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師より、担当医に随時情報の共有、相談をしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期について早い段階での話し合いは出来ていないが、グループホームで出来る事はご家族とのコミュニケーションの中で常々お話している。	病状の重度化や加齢による終末期の状態になっても馴染みの関係での生活を維持し、本人の望む場所で最期まで暮らしていくことが出来るよう、医療関係者家族等と協力して対応していくという「重度化対応・終末期ケア対応指針」を作成し、契約時に同意を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED使用法や緊急時の対応についての研修を定期的に行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練を行っている。地域との連携が今後の課題となる。	消防計画を作成し、年4回避難訓練を実施する旨運営規定に定めている。昨年3月の開設以降、8月に火災報知機の業者を招き避難訓練を計画し、利用者と職員が参加している。その後訓練は実施していない。開設間もないこともあり、地域に対して協力の依頼もなされていない。	有事の際は、人的支援が必要と考えられるため、運営推進会議を活用し、地域との協力体制作りに取り組むことを期待したい。消防計画に沿って火災や地震、水害等も想定して、消防署の立会いの下、非難訓練の実施が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	話題によっては、声の大きさや場所に配慮するようにしている。また、利用者の人格を尊重し、会話は敬語で行うようにしている。	職員は丁寧な言葉使いで声かけ対応している。外に出たそうにしている様子を見かけた時は、一緒に外出したりとその時々のお気持ちに寄り添う対応をしている。管理者を中心に日々の介護に問題はないか全職員で確認し合い介護している。個人の書類は鍵のかかる書棚に保管している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お話の傾聴に努め、自己決定して頂けるような環境の調整を心がけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の体調、希望を第一に本人ペースで一日を過ごして頂けるよう柔軟な支援に努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には整容の声かけや一部介助を行い、一緒に洋服を選んだり、行事では希望があればお化粧をして頂く事もある。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲で調理、片付けを手伝って頂いている。嗜好に関する希望は柔軟に取り入れられている。	食事中はテレビを消し音楽を流すようにしている。野菜の皮むきや食器洗いに食器拭き等、個々の力を活かす場面を積極的に作っている。節分にはいなりや恵方巻を皆で作って食べたり、弁当を買ってコスモス見学に行く等、季節毎の楽しみを味わうようにしている。誕生日には手作りケーキで祝う等、食事を楽しんでもらえるよう献立の希望や意向を取り入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の身体状況、好みに合わせた食事の提供を行っている。食事量、水分摂取量のチェックも行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの実施と週に1回義歯洗浄剤での洗浄を行っている。異常があれば歯科受診を行う。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、排泄パターンの把握に努めている。不必要な紙パンツ・パット類はケアカンファレンスの上外すよう実践している。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、時間ごとに誘導する事で、失敗を減らしオムツ外しに取り組んでいる。入居時紙パンツを履いていた方が今では、昼夜共に普通の下着着用になる等、自立に向けた支援に力を入れている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取に努めて頂き、体操や歩行運動など軽い運動も積極的に取り入れている。便秘がちな方には牛乳や食物繊維入りのゼリーの提供も行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴チェック表を利用しているが、ご本人の体調や希望に沿って柔軟に対応している。	日曜日以外の日を入浴日と決めている。週3回を目安に入浴が出来るよう支援している。希望すれば毎日でも入浴は可能である。同性介助を基本とし、入浴が億劫な方には、声かけに工夫したり、時間をずらしたり、職員を代える等して対応している。好みのシャンプーを使ってもらい、入浴が楽しめるように支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間のゆったりとした雰囲気作りに努め、日中も適宜居室やソファでの休息を取り入れている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指示のもと、薬の効果や変更について周知に努めている。介護職員も薬に関する知識を深める事を今後の課題としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の好みや特技を把握し、調理や洗濯等の家事、また、カラオケや編み物等の趣味を楽しんで頂いている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望または職員側からの働き掛けでドライブや散歩、ウッドデッキでのお茶会、戸外での活動支援等を行っている。	気分転換や五感刺激を目的に、戸外に出る機会を積極的に作るようにしている。車椅子でも敷地内を散歩する支援をしている。また定期的に神社参りを計画し、おみくじを引いて楽しんでもらっている。宝くじを買いに行きたいと希望する方に対し、個別の外出支援を計画しているところである。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、施設での金銭管理は行っていないが、ご家族・ご本人の了解のもと、ご自分で少額管理されている方もいる。本人の希望で買い物付き添いや代行も行う。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前にご家族へ話をした上で、ご本人の希望・状況により電話、手紙の取り次ぎは行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎に写真や利用者と一緒に作成した飾りを貼っている。その際は誰も不快に思われないように配慮している。	ホールでは、誰もが口ずさめる音楽を流し、歌に合わせて肩たたきをして触れ合ったり、話が膨らむよう工夫している。訪問時、ホールの壁面は、赤鬼青鬼の貼り絵があり、季節を感じる工夫がなされている。家庭的な雰囲気や大事にしながら、利用者みんなが生き生きと安心して暮らせるような空間づくりに取り組んでいる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の希望や他の入居者との相性を考慮した座席作りの配慮をしている。ソファでは席から離れて、寛いだり昼寝をして頂いたりしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や仏壇等、私物を自由に飾って頂き、その方らしい空間づくりに努めている。	以前自宅で使用していたと思われる鏡台や座椅子、筆筒等が持ち込まれている。入居後も馴染みの物を持参してもらうよう家族に説明する等、居心地よく過ごせるよう支援している。また居室は、利用者と一緒に掃除やシーツ交換を行い清潔保持に努めている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内を安全に移動して頂けるよう障害物を極力排している。また、迷われる事がないように廊下に案内紙・居室に表札を貼っている。		